

蔵人共同浴場（ほっこり湯）利用者説明会でいただいたご意見について

平素は宝塚市の運営にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

蔵人共同浴場（ほっこり湯）については、令和元年度に策定した「宝塚市公共施設（建物施設）保有量最適化方針」（以下、「最適化方針」）において、「令和9年度までの廃止」が決定しています。このことを踏まえ、8月29日と30日に説明会を開き、当該施設の今後について、施設が現在抱えている課題とともにご説明いたしました。具体的には、当該施設が本来であれば耐震化に加え、配管等の大規模な改修が必要な時期に来ており、安全面からも経営面からも現状を維持しながら運営を継続することは困難であることをお伝えしました。また、説明会では市だけでなく、運営者、地権者も説明側として参加し、老朽化の進行具合や土地に対する自治会の考えについてもそれぞれご説明したところです。

説明会に参加された利用者の皆様からは、ほっこり湯に対する思い、何とか続けてほしいという声や、今の建物でなくてもよいので銭湯を作ってほしいといった様々のご意見をいただきました。こうした当日お寄せいただいたご意見については、担当課より報告を受けており、利用者の皆さんの考えについて認識を深めることができました。

一方で、当該施設を存続させるには莫大な費用が必要です。これは、現状の建物を改修する場合、新しく浴場を建てる場合のどちらでも同じです。しかしながら、現在宝塚市の財政は非常に厳しい状況にあります。毎年約 6.3 億円の赤字が生じる構造的課題を抱えており、支出の削減が急務となっています。このため、やはり当該施設を廃止することはやむを得ないと考えています。また、新しく浴場を作ることも同様の理由から困難です。

永年にわたり地域の皆様に親しまれてきた歴史ある施設であること、近年は市外の方も含め多くの方にご利用いただいていること、利用者の皆さんにとって健康増進や交流の場となっていることなど、当該施設の価値や役割が小さなものでないことは理解しています。また、当該施設が今や宝塚市に残る唯一の銭湯であることも認識しておりますが、市全体の運営を考えたとき、今後も市民の皆様を持続可能な形で行政サービスを提供していくためには、この判断は必要なものと考えています。

いつもほっこり湯をご利用いただいている皆様には、ご不便をおかけすることになり、大変申し訳ありませんが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年（2025年）10月14日

宝塚市長 森 臨太郎